

槍ヶ岳・北鎌尾根

鐵板のレリーフがある喉首は、
ここが「槍ヶ岳登攀への登り口」
であることを示しており、見上げ
る岩壁は元貢丈で、足場も手
掛りも次々あって、洞窟の中
を登っていくような感じである。
全身神経をピリピリさせな
がら、最後の底力を振りしほ
って、次々確実な岩棚に手
足をかけひは高度を稼ぐ。

茂、息遣い、だるくな手足
立ち止つては岩を見詰め、
素手でつかむ。感、角虫を樂
しみながら、壁とよじ登る。
最後に大きな岩壁を腕力
にかけて登ると、明るい空が
見えた。もう頂上は頭上。
詰し声も聽こえたようだ。
遂に祠の後ろへ頭を出した。
大きな声で「万歳、三晶」とした。

北鎌平でホッとしたのも東の間のこと。
槍の穂先は霧を巻いでは振り払い
見え隠れしながら首をかしげている。
丁頂上に立つ人の姿も見えるがまた
また高い。西鎌尾根の壯絶さ。
ここから喉首までがまた大変な岩
石壁のルートだ。踏跡も漠然として
岩塊の海だ。浮石も多々。頭よ
り小さな石には乗らないことだ。
遇ったら岩などれて千丈沢に消える
であろう。大きな岩塊を選んで
槍の懷に近づいて行く。

昔から多くの人が權力、風雪の
縦走と果すことなく鬼籍の魂が
無念の涙を流しながら、この黒々
とした岩稜に迷い続けているようだ

突然北鎌沢ノコルから「名古屋のおじさん」と呼ばれてビックリ、見上げれば「昨日の昼、晴嵐荘で話をした東京の白土さんである。コルに到着して話を聞く。

白土さんは昨日午後出発し、北鎌尾根P22でテント泊し、北鎌沢を覗くと、おじさんが見えたので声を掛けたと言う。実は今日槍ヶ岳に登るのは、昨年秋のこと、冬期積雪期の北鎌尾根を縦走するための荷上げを終えて帰る途中、天上沢の破損した吊橋を渡ろうとして、(当日増水のため飛んで渡ることができなかつたため、)転落し、この春まで行方不明となつた。その娘の遺影をロケットにあらめての登山であることを言ひしてくれた。

水俣川の吊橋を渡る前の新しい、遭難碑もその家族の建てたものであると……そして晴嵐荘の宮沢さん時間毎に交信しながらの登高と聞く。私も始めての難コースであり、「同行」を了解願つて一緒に行くことにした。

やつとテント三つほど長れるほど)の
地がある尾根に出る。ここが有名
北鎌平(ひがしはこひら)、槍の穂先まで1時間。

独奏を巻き終えても、槍への道は遠く。
左に大天井岳が高くそびえ、右に硫黄岳
が一赤々と輝く。登り下りの激しい、荒々しい
岩屑の中の踏跡は見えて隠れながら続く。

This hand-drawn map illustrates a mountain route with several key points and associated notes:

- Point 二八七三 (2873m):** Located at the top left, with a note indicating a 60-minute walk from the previous point.
- Point 二九〇一 (2901m):** Located in the center, with a note indicating a 45-minute walk to the next point.
- Point 2899 m:** Located on the right side.
- Route Characteristics:**
 - A steep section labeled "激しい上下" (steep up and down) with a 60-minute walk between points.
 - A section labeled "緊張の続く中での大展望" (large view during a continuous tension section).
 - A section labeled "曲り登り下り" (curved climb and descent) with a 60-minute walk between points.
 - A section labeled "激しい" (steep) with a 45-minute walk between points.
- Time Notes:**
 - "12:00~12:15支信" (12:00~12:15 Shishin) is noted near the 2880m mark.
 - "12:35休憩" (12:35 Rest) is noted near the 2873m mark.
 - "11:50" is noted near the 2899m mark.
 - "11:50~11:10" and "11:10~11:00" are noted near the 2899m mark.
 - "10:55持走" (10:55持走) and "10:47下ラジ" (10:47下ラジ) are noted near the 2899m mark.
- Other Labels:**
 - "ベテラン" (Veteran) and "白土さんのおかげで助かった。" (Thanks to Mr. Shiraki) are noted near the bottom left.
 - "たと思ったら、円い大きな手掛け" (Thought I was thinking, it's a large circular hand-hewn stone) is noted near the bottom center.

方左側に立ちひさぎ私は
案していると、独楽に行行く
へかもどり、ここは岩の陰に
ふら、それに左足を掛けで、
走らせると、うまく渡って
してくれる。

これより見上げる独票は大きく、
大岩峰の堂々たる偉風と質
録を見せていて胸のすく想いだ。

ニ又にはケルンが積んであり。
北鎌沢ノコルへは、右手の真すぐ
尾根に突き上げる急斜面の沢
を登って行く。塊石と岩屑が終
始コロコロと堆積し、登りづらい
が、浮石には気をつけたい。
左俣は最後岩壁で一般的でない。

単独行 装具はザック10kgで一気に登る計画
渡渉点より、天上沢に沿って約1時間
遡ると、右から入る大きな谷に出合う。
これが北鎌沢で、出入口の中には20mもあり。
明るく大きな谷である。ケルンの上にはリーフ
があって、ひと休みした後、この塊石の谷
を登ること500mでニ又に着く。

立體詳細圖

1981年5月6・9・13
七倉5:35出発~湯俣
晴嵐荘へ9:12着
9月14日朝3:10出発

飛めた独票は岩の殿堂で
瓜に見えたが、近付けば長い
よ岩を碎き、無惨な崩壊
歎絵を見るごとく殺伐と
ても登る気になれないで
踏跡に入つて巻くことにす。

こより先、全コース千丈沢側りを行く

北鎌沢ノコルからは東京杉並区の白土さんと一緒に、
鈴鹿の山を登るような気分で、急斜面の尾根を
登る。雲も少しづれて遠くの山々が頭を出し、
「よし、槍まで行くぞ」の気合で進める。

A map showing the Kitanomine-Kitanomine Line and the Kitanomine Station area. The station is located at an elevation of 2470m. The map includes labels for '北鎌沢' (Kita-Kamizawa), 'コル' (Cor), '至千天出合' (Chitennobasho), '横走路' (Yoko走路), '9月20日～9月23日' (September 20th ~ 23rd), and '青空と出でた' (Blue sky and emerged). A vertical line labeled '北鎌沢' connects the station to the top of the map.